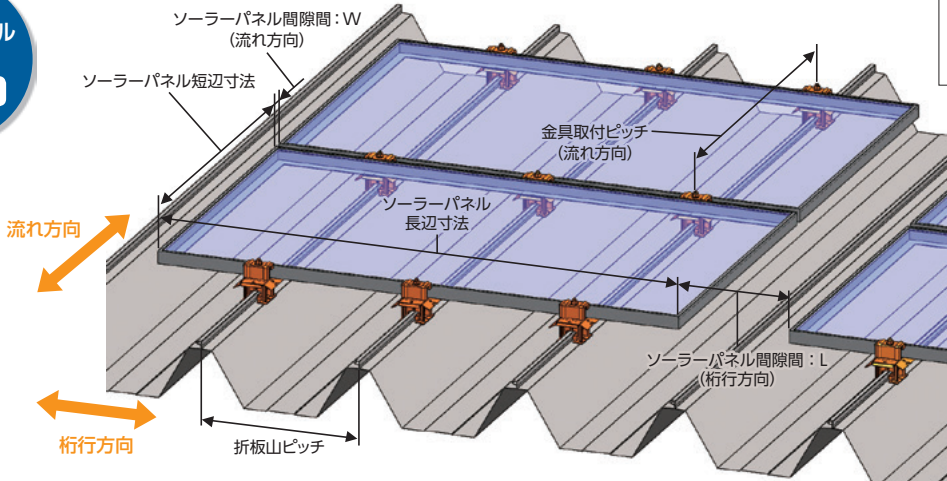


各部取合い寸法

②直付工法 (ハゼ式A・B (角ハゼ・丸ハゼ) 高強度タイプ)



イラスト例
 ●ソーラーパネル: NFタイプ
 ●ソーラー金具: ハゼ式A 高強度タイプ
 ●屋根: ハゼ式A (角ハゼ)

※ソーラーパネルメーカー様に隙間の指定がある場合は、その指定に準拠してください。

ソーラーパネル間隙間 (桁行方向): L

左右対称配置の場合 桁行方向 (最小寸法): $L = \{ \text{折板山ピッチ} \times (\text{ソーラーパネル長辺寸法} \div \text{折板山ピッチ}) \} - \text{ソーラーパネル長辺寸法}$
 ↓
 小数点以下切り上げて整数にする

偏心配置の場合 隙間は、屋根・建物・ソーラーパネルの強度・耐久性を考慮し、ソーラーパネルメーカー様の設置 (配置) 仕様 (条件) に準拠した上で、お客様にて決定してください。

※最小寸法が5mm未満の場合は、折板山ピッチを加算してください。また、ハゼ式皿型への取付けの場合は、山ピッチではなく働き幅で隙間寸法を決定してください。

ソーラー金具取付ピッチ (流れ方向)

流れ方向 = ソーラーパネル短辺寸法 + W (ソーラーパネル間隙間 (流れ方向))

設置条件について

- ①ソーラーパネル固定方法: ソーラーパネルフレーム押さえ固定 6箇所留以上 (ソーラーパネル1台あたり)
- ②屋根なり設置 (屋根置き形): アレイ面 (屋根面) = 屋根勾配 = 設置 (傾斜) 角度
- ③多雪区域ではアレイ (ソーラーパネル) から軒先・棟までの距離および分割されたアレイ間の距離、屋根勾配を含む設置 (傾斜) 角度によって、屋根からの落雪・雪庇・巻垂れ・氷柱・吹き溜まりなどの影響によりアレイや金具・架台に滑雪荷重が加わり、アレイや金具・架台が滑落・引きずられる場合があります。また、屋根形状・風向き・日射方向による積雪荷重の不均衡や、積雪後の降雨や寒暖差により融雪・結氷を繰り返す事や、建物の立地地域・立地条件・屋根形状・屋根面の方角などにより、雪の平均単位荷重 (P [N/m²・cm]) が増加し、アレイや金具・架台に加わる積雪荷重が増加する場合があります。そのため、必ずアレイや金具・架台への荷重を減らすソーラーパネル設置位置 (レイアウト) や固定位置・隙間の検討および雪止金具やアングルを取付けるなどの滑落・滑雪・雪止対策および除雪などを行ってください。(⇒ P85「雪止金具のご案内」を参照してください。)

※その他の設置条件については各屋根ごとの設置条件を参照してください。

屋根設置について (ソーラーパネル設置可能範囲)

- ①軒先、妻 (けらば)、包み、棟、採光部分 (樹脂製屋根など) には設置しないでください。(軒、妻への設置は設置条件および JIS C 8955: 2011 の適用範囲外です。) また、ソーラーパネルおよびソーラー金具は屋根端部から500mm以上離して、かつ壁線より内側に設置してください。
- ②屋根周辺部 (外周) は屋根中央部に比べ、風圧荷重が大きくなる傾向があります。その為、ソーラーパネルは、屋根周辺部 (外周) より、それぞれの辺長の10%の範囲 (辺長の10%が3mを超える場合は3mとする。また、辺長の10%が500mm未満の場合は500mmとする。) を離隔し、設置することを推奨致します。

